

頭書
画入

大日本地理往来
全



特31

444

一
卷
本

022624-000-0

特31-444

大日本地理往来(頭書画入)

伊藤 卓三/著

[刊年不明]

ADB-0344



一
冊

伊藤卓三著
梅村相保書

全一冊

頭書

畫入

大日本地理往來

武州忍行田 博文堂梓

特31

444

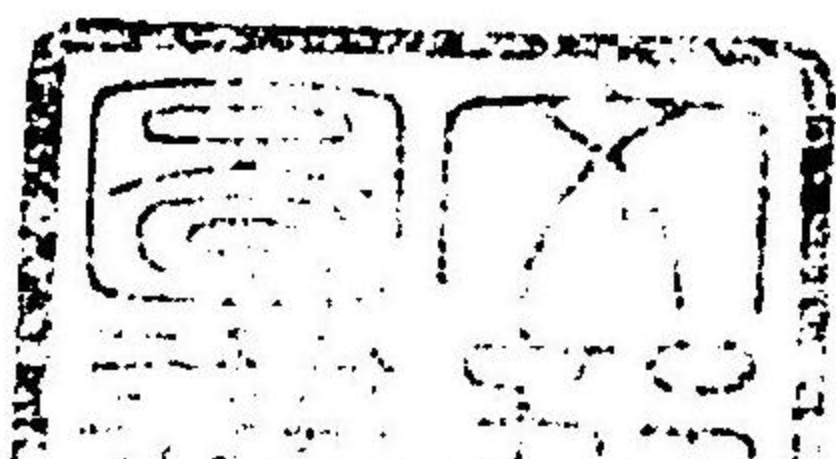
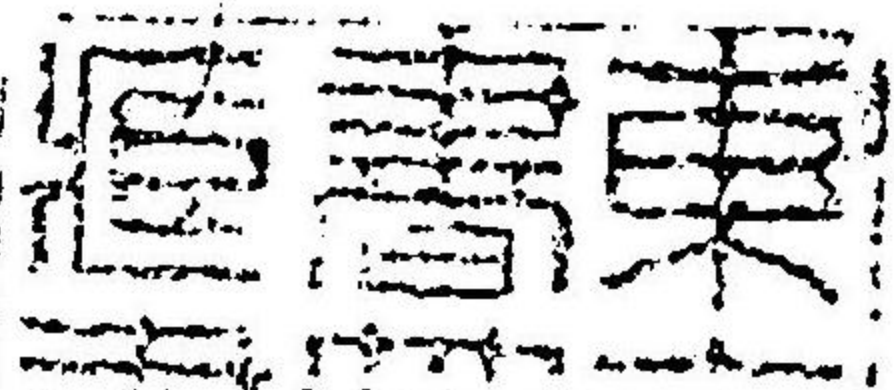
しんぎん

而此國之地理乃學を梅村

之書を二つに分ち地理と文

制を分ちて其の科分

りて其の科分を其の科分



大日本
 地理雑考
 月一
 大日本
 地理雑考
 月一

大日本
 地理雑考
 月一
 大日本
 地理雑考
 月一

初反のりるのちもまた此の國境を
直しめたる人のみならず此
其の國境を
其の國境を

國號

國號は上古神代より種々
は唱へりたる天智帝九年
み至つて國號の錯を改正
天下を勅しあれは異國
よも昔玉ふ故に東國通鑑
朝鮮國に倭國更號日本と
の史あり又唐書にもこれより
以来日本と稱し又日本東
とつて此時新羅とて文

大日本地理往來

伊藤卓三著
静巖村清書

我日本帝國
太平洋西

武王十年文那ハ唐の高宗
咸亨元年あり然キバ往古
ノ数多ありて國號ハ一定

セガリ一ノの見也

豊葦原五百秋瑞穂國

浦安國

細戈千足國

磯輪上秀真國

王垣内國

以上の五箇ハ神代ニ唱ヘ

北北隅子位

廿一犬島

あり北緯二

十六度三十一

五分より四

十九度ハ間

子七東經百

二十九度と

一ノあり

豊秋津洲

大倭日高見國

虚空見日本國

磯取盧島

此外種々られど畧す

國郡

國郡の境界を始めて分ち

一人皇十三代成務天皇

五年ハ山河を界して國縣

を分ち降伯は随つて邑里
が定め國郡おした造長と
立て縣邑は稻置と置き楯
矛を賜ふて其表と為を其
後又崇峻天皇二年は諸國
の郡境と改め玉ふ其より
後聖武天皇天平十年諸國
ふ令して國郡の圖を造り
て進らしむといふ皇政維
新以後全國を五畿八道ぬ

百五十度あり
あり至東
若境界る千
島の内能急

分け道毎に分を州とぬ
州は郡あり郡は郷あり
郷は村あり村は字あり州
合せて八十四郡数七百十
七郡内八十七郡は北海道
あり古代の調子ては郷数
三千七百七十余あり村数
は天保度の調子六万三千
六百五十九あり但し北海
道は之を除く石高は北海

とろふ嶋真
北る極東の
柯太より魯
西豆國と地

道を除きて三千一百六十
二万石余外ニ琉球國あり
十四万石あり現石一千一
百六十五万石余あり按ぞ
るよ舊事記第十卷曰總任
國造百四十四國とされど
も土地褊小多るゆへ漸
々併合して減せり所の
方りん然もども世を逐ふ
と割分せり所のまより

北西の角ハ
日本海全圖
南ハ太平洋
東
北橋

り嵯峨帝の御宇越前七割
て加賀を置き後六十六
州とありしなり此後分割
の事あり王政一新以來北
海道十一國を合せ陸羽二
國を分割して八十四州と
あれり

戸口
戸数三府七十縣より大
凡七百六万七千六百二

名さるる百餘
里幅六十六
里
面積六千餘
里

十八戸有り此内三府を
三十六万二千百五十六戸
あり七十縣を六百七十
万五千四百七十二戸有り
外北北海道十一國を大
凡一万五千四百戸内土人
三千六百四十六戸人口を
總計三千二百七十九万四
千八百〇七人あり此内華
士卒凡百六十一万六千百

二萬四千七百
百方里人
三子三百萬
五畿八道

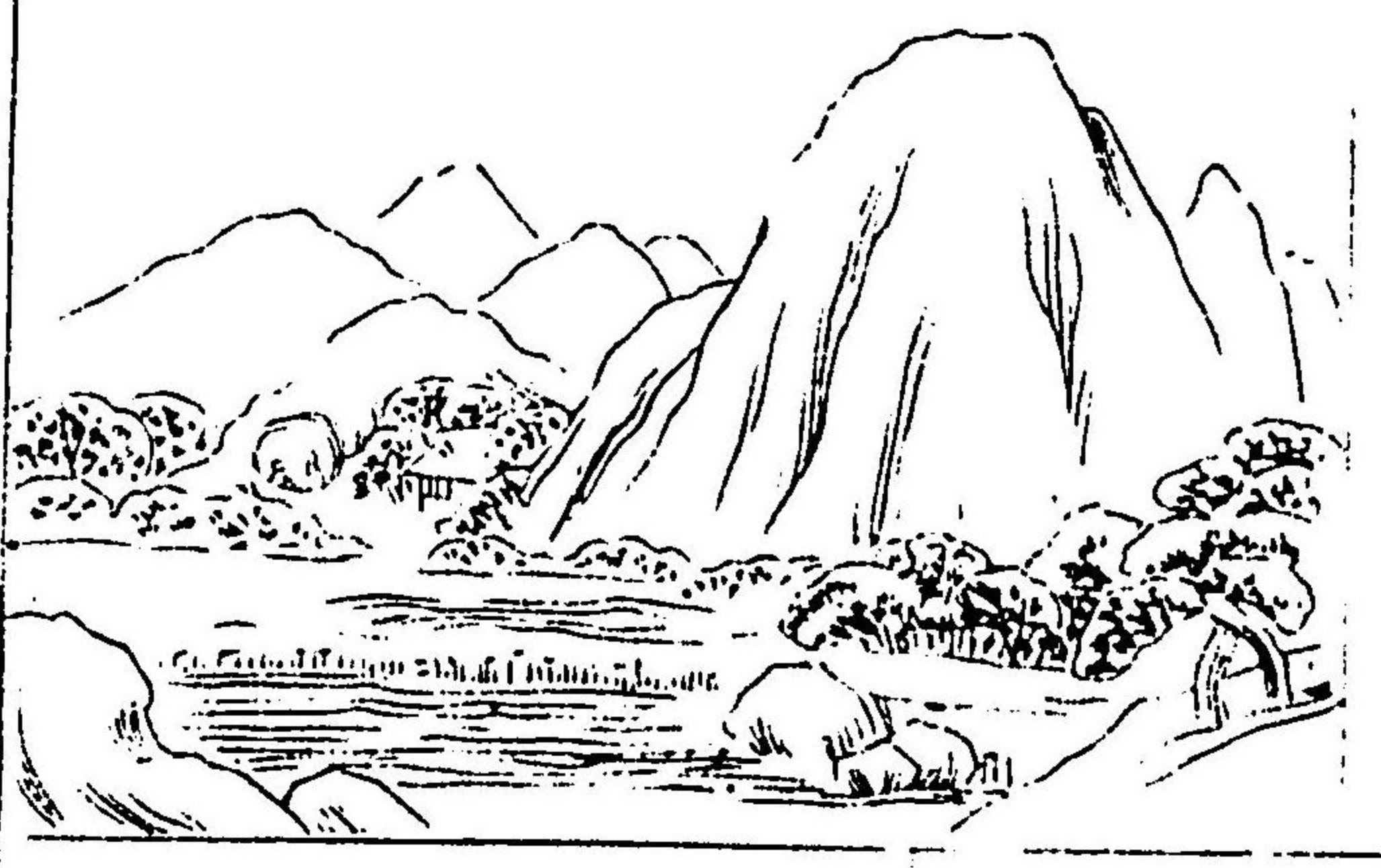
九十六人平民凡三千八十
五万五千四百七人社人凡
十五万三千四百八十僧尼
凡十七万百五十四人外
北海道を七万二千二百六
十四人此内土人一万六千
百三十九人
氣候
氣候は地方より殊異
多れども大抵北方を寒気

國分
八十四
州又
郡

甚しく南方ハ温暖なり緯
度ふ以がれハ四方ハ海を
繞りてを以て頗る暖和と
を松前の如きは北緯四十
二度ふありて冬十一月の
頃より二月に至つて積雪
融けを夏日溪間をどる甚
く寒を覺ふといふ又蝦
夷地方がの峯の近地の如
北緯四十五度二十一分

るを郡數七
百十七郡府
の數三箇縣
の數大小六

よして筑族隆寒小麥熟成
をるを得冬不至りてな



十箇を置て
全國中其管
轉を氣候温
和なり地味肥

寒威尤嚴酷より上人は
ふ土中み穴居して寒を防
ぐとりふ又四時とも小雨
多く颶風暴風の害甚し總
て本邦ハ歐羅巴州同緯は
國よりる寒氣甚しといつ
ども熱帶温帯の産物も繁
殖し人生の需用も欠乏お
らぬ實地地球上の良地と
りふべし

之れ實母坤
楽地より出
土地より出
産物ハ五

全國人種の外貌顔骨高く
頭顱廣く毛髮黒く長
一蒙古種より属をといふど
も其風味より容貌剛雅
丰米雄偉の者多し婦人お
いた其肌膚白く幽姿麗雅
詩と愛をへし人心俠勇義
を見て進し仁愛の情木ゆ
深く安んず世界お其比を見
るとりふ人類を華族士族

金穀物生糸
綿織造品
巧る絹布
如陶器漆器



古 諸國傳一
 玉 珍産
 至 精妙 妖 貴
 一 々 々 々 々 々
 一 國 内

卒族平民僧侶の五箇區
 別を華族ハ旧時の侯伯
 一々上地人民を私有一臣
 下若干を使役一儼然一人
 の自由を占りれども王室
 龍興政權朝廷ニ歸せし
 り各昔日の非を悟り卒濱
 王土方々の理を知り悉く
 藩籍を奉還してより皆之
 を華族と稱して国内の貴

山 嶽 羅 一
 て 中 片 名 高
 之 富士 山 八
 海 より 出 る

威と士卒二族ハ多ク
 旧諸侯の臣下より藩籍
 奉還の後ハ朝臣とあり
 たるあり平民ハ華士卒
 比をまが自由と束縛と
 甚難儀なる身の上なり
 此亦朝廷至仁の政
 と以て天然の真理目找
 注がれ四民を推を同
 りせり自主の権義始て

其高き一子
 四百七丈
 絶頂ナル處
 消へ花其他

立ち雲霧を閉て天日を見
 るが如く突ふ千載の一事
 至仁の徳感戴せざるべけ
 んや僧侶の事ハ宗教の部
 又詳あり

文字
 國字ハ五十ありて連続
 て語を作も上古神代文字
 あり肥人書りり薩人書り
 り然も或る鳥篆の如

月山 活嶽山
 大峯 白山 澄
 衆嶽 神湊 遺
 花霧 崎山 阿

八
 九

く或ハ梵字の如く其空讀
 又其體辨をば
 らを天武帝は世新字四十
 四卷を造る其體恰も梵書
 の如く昔倭公に至り百國
 音五十母字を造漢字の偏
 旁を取て字形を為を之故
 片假名とりし平假名ハ弘
 法大師作り所あり漢字の
 吾邦ニ傳はりし應神帝

蘆と淺間
 噴火山
 高
 山
 地形

の時百濟より經典字書を
 獻むる由て博士を徵せ
 百濟の久素王仁以て
 應を皇子之を師として孝
 經論語を受け玉ふ此時
 漢字始て傳はりしあり王
 仁の先祖漢の高帝の末孫
 ありて乱を避て百濟ニ來
 り漢音を以て傳世の學と
 せしや日本へ來りて漢

幅
 河
 水
 雙
 水
 狹
 深
 木
 利
 根
 大
 高

音と以て傳へしあり其後百濟より復佛書を獻む時一人の尼漢土の吳國より來り此尼南音と換りて傳へしより字音始て漢吳の別出來ありされども讀法支那と同しなり漢文を讀と吾邦の文を讀が如く容易ありを聖徳太子の大功あり太子異國の

川を全國内
乃三大河と
志々次と
大井川富士川

書を用て吾國の訓点を附玉ひ先論語より始むと聖皇本記み見たり後桓武帝延暦年間詔を下して天下の學明經諸生との共讀を正し今漢音も依て吳音を用るとありしむ述れ年又至り歐洲各國の學を修むる者多く中より英學は從事するもの尤多きに

阿武隈坂田
川又五名
河派あり湖
近江の琵琶

居る佛學獨逸學之次々
現今歐米二洲は留學する
の官費私費を併せて四
百七十五人ありとり小本
年文部新令を下し學政
我開張し高遠無用の弊習
と去り卑近有用の教則を
定め大ひ小天下に施行を
す小至まり全國文學の盛
大を趨く日を指して待つ

瓊湖を第一
と南嶺と南
北十九里餘
東南凡八九

つて一學校ハ東西兩京
大凡七十八所生徒大凡
一萬七千六十余人其他諸
縣學校を設くるに日々
盛んありとり文庫ハ文
部省紅葉山の兩所あり
文部の文庫より皇國書籍
の數凡千六百九十三卷余
洋書三千九百八十卷余漢
書二十四百八十九卷余佛

里解至代諸
物亦多け
と一里
らぬ小湖

書四十八百卷余此内道書
四千四百卷余あり

國教僧侶

全國教法ハ教部省を置て
之を掌らむ教導職を置
き從前の神官僧侶を
之み充て四方に散れし
教せしむ元來神官を護摩
祈禱かどと僧侶ハ死喪
の支のまよ与り愚民の錢

わ 又 人 或 有
蒙 右 種 多 有
華 士 或 亦 有
僧 侶 亦 有 也

と負ふ今朝是此等の無用
の者代して有用に當る者
實に宜きを得たりと謂へ
し説教は天趣寺ハ一ノ敬
神愛國の上旨を体もつた
支ニ一ノ天理人道を明し
へき支三ノ皇上を奉戴し
朝旨を遵守せしむべき事
此三条を以て人民に教諭
と抑佛法の吾邦に傳せり

つ 如 亦 有 分
類 是 文 字 之
元 來 有 十 字
あり 然 り 也

一八八皇三十代欽明天皇
 十三年百濟より佛像經論
 と献む帝群臣を集めて之
 我議す大臣蘇我の稻目之
 を納んと請ふ物部尾與中
 臣朕海之と争ふ因て佛像
 を稻目と賜ふ稻目我弟と
 捨て之を安置を其子馬子
 及び厩戸皇子相共と仙と
 信ト終小興盛を致を後又

得て為る物
 有れど昔時
 漢字を用ひ
 しり百神



の書籍
 有るは
 文字亦
 有るは

諸洲に國分寺を置て法を
弘む其際名僧知識輩出
或ハ入唐して留學し駿々
天下に蔓延を即今宗門令
まで十一派仏寺大凡二十
九万六千九百所僧侶の數
大凡十六万八千六百五十
四人ありと云ふ
植勳産
皇國の地なる坤輿中より

用る失は
情は他國
勝走一八皇
統為古不
易

其地を見ざる美地不
熱温兩帶中の諸産物生
せざるハ木料及び各
種ノ菜物何れの地にも皆
多一松杉檜梅杏櫻桃橙
の類數ふる違ふ加ふる
土地沃饒人民悉く耕作
を力むる中人植物に造る
る地ハ開拓至らざる所
大抵東北の國々を采多

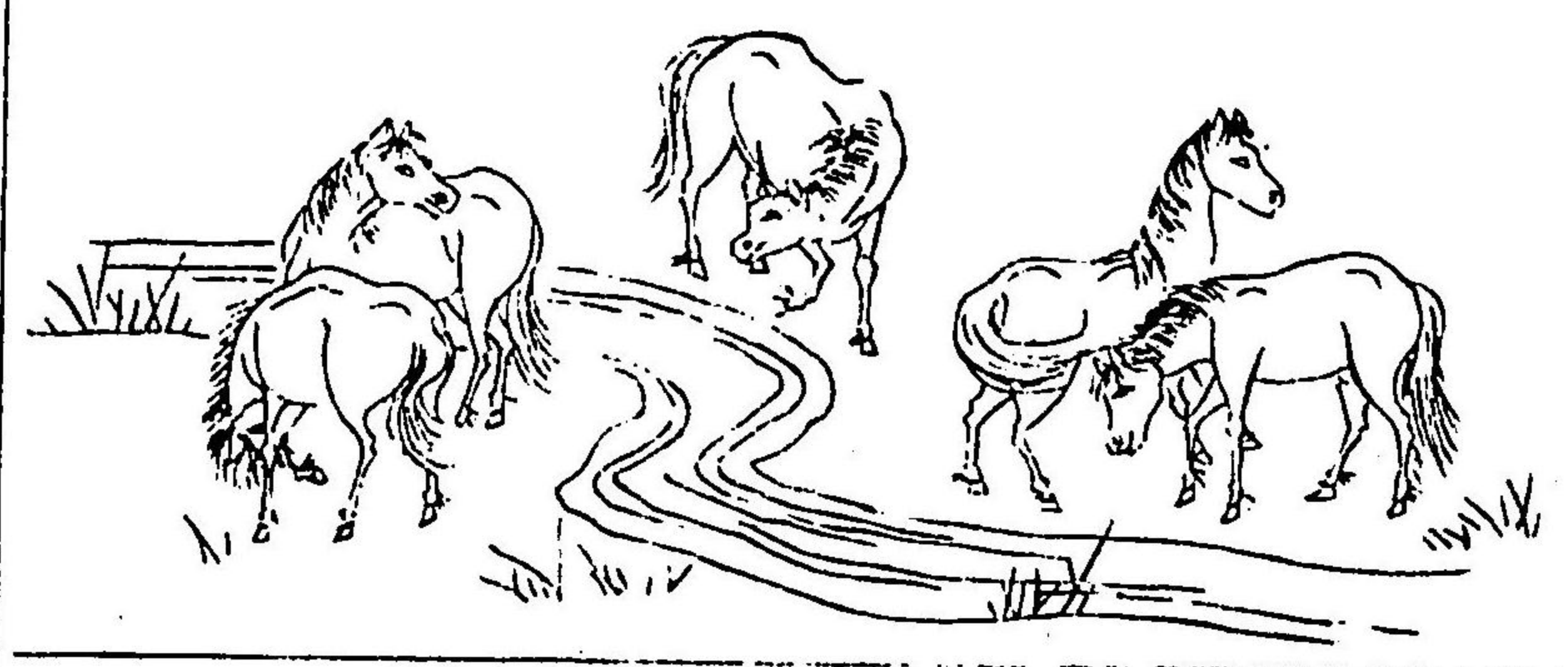
子て一主大
神世紀事
具多古
如ぬが地
神

まが故みら茶益を養ひ絹
絲其他織物を出も尤
も多し又南西の諸國を
糖茶煙草等を出て就中
方地方ハ温暖あり由米
一年二度の收納を得
所あり近年ハ各地多ク茶
園を開く支盛あり年々
量丈那も劣らざるや

の活母尔屋
わてハ日向
子初より満
母り至及人

みるるべし動産ハ虎豹駱
駝象戎ハ羊山羊驢の如
くハ國中不産せざる由
ハ國人之を知らざるを
の多し牛馬唯運送耕作
為し驅使せしものて乳
汁肉酪の如きた食する者
あつりハ現今ハ泰西技
生の道宜き小適ひとるハ
知り國國茶て肉食もるを

皇第一祖
神武天皇
至り聖明英
武宏資以



て不逞の國
を征伐し
中原悉く平
す其地を大

の多く又官府よりの牧牛
場を所々置き乳を絞
酪を製すると日と逐て盛
なり馬ハ陸奥陸前陸中岩
城等の國は多く産を形小
あれども駿秀のりの多
猪鹿熊兔猿狐狸猫鼠鳥雀
鷄鶩の類甚だ繁一又四方
海は枕むやうに魚類澤山
よして棘鱗魚鯉魚鯪魚

初より定ぬ
る降て人皇
る十
桓武
と皇の

鱒魚鯉魚青魚等國人皆食
其供を瀕海の地方人民漁
業を業とするもの多しと
す

礦山

國內尤も金屬豊富の中
も佐渡を以て第一と其
他諸州に金銀銅鐵を
事以類あり銅等ハ皇國の
世最美ありと云ふ每歲金

時地改正
の國母お
爲世不朽此
帝乃

銀を外國へ輸出する數量

凡四百二十萬元に至り

と云ふ佐渡相川金銀山ハ

現今官府英人と雇ひ西洋

器械を以て行ふ一月金大

凡四貫二百目銀大凡五貫

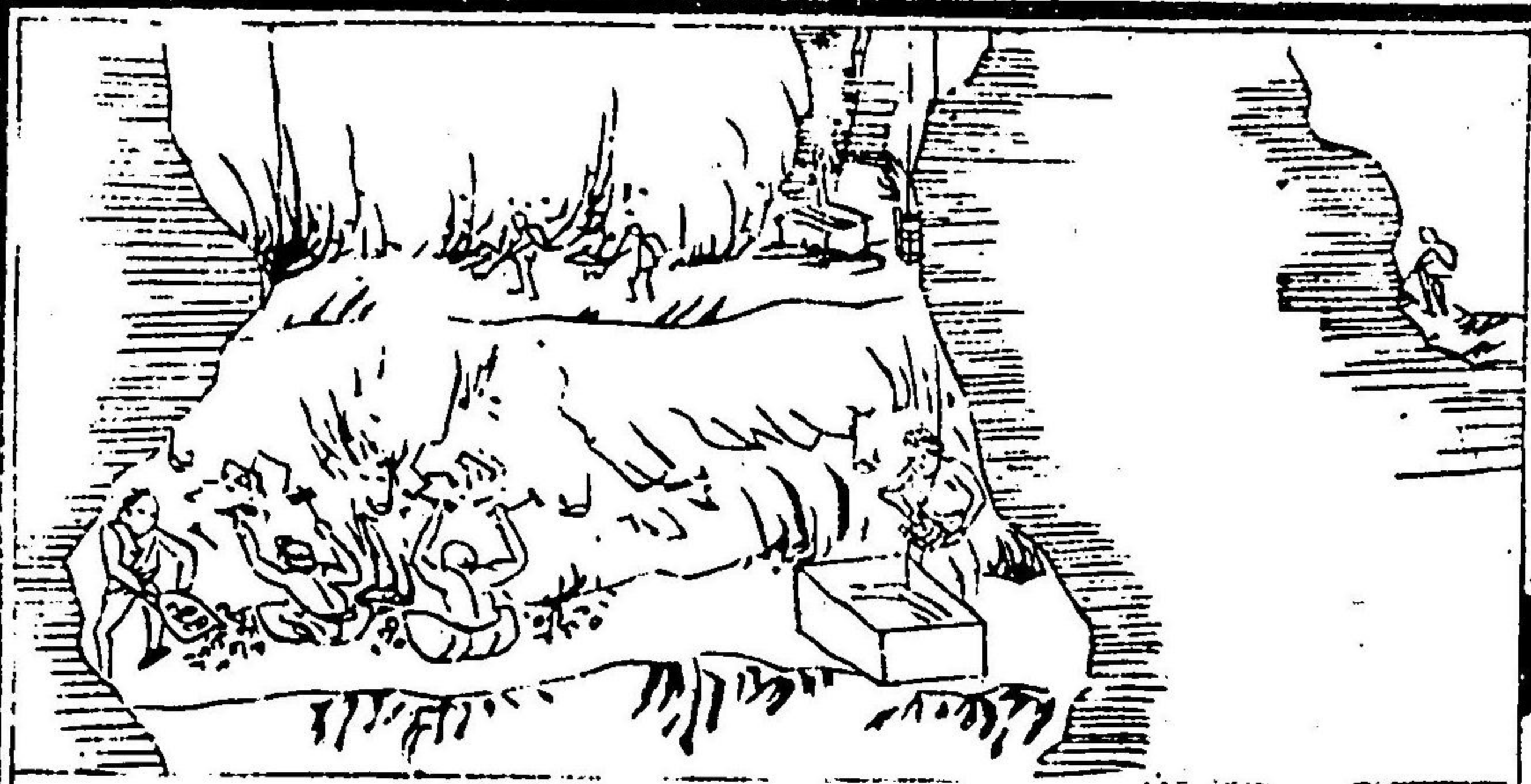
八百三十目と出ると云ふ

又但馬生野銀山ハ佛人

を雇ひ同く西洋器械を

以て其金採出ると一月凡

采海味と唱一
と云ふ後改定
て西京といふ
水味と云ふ



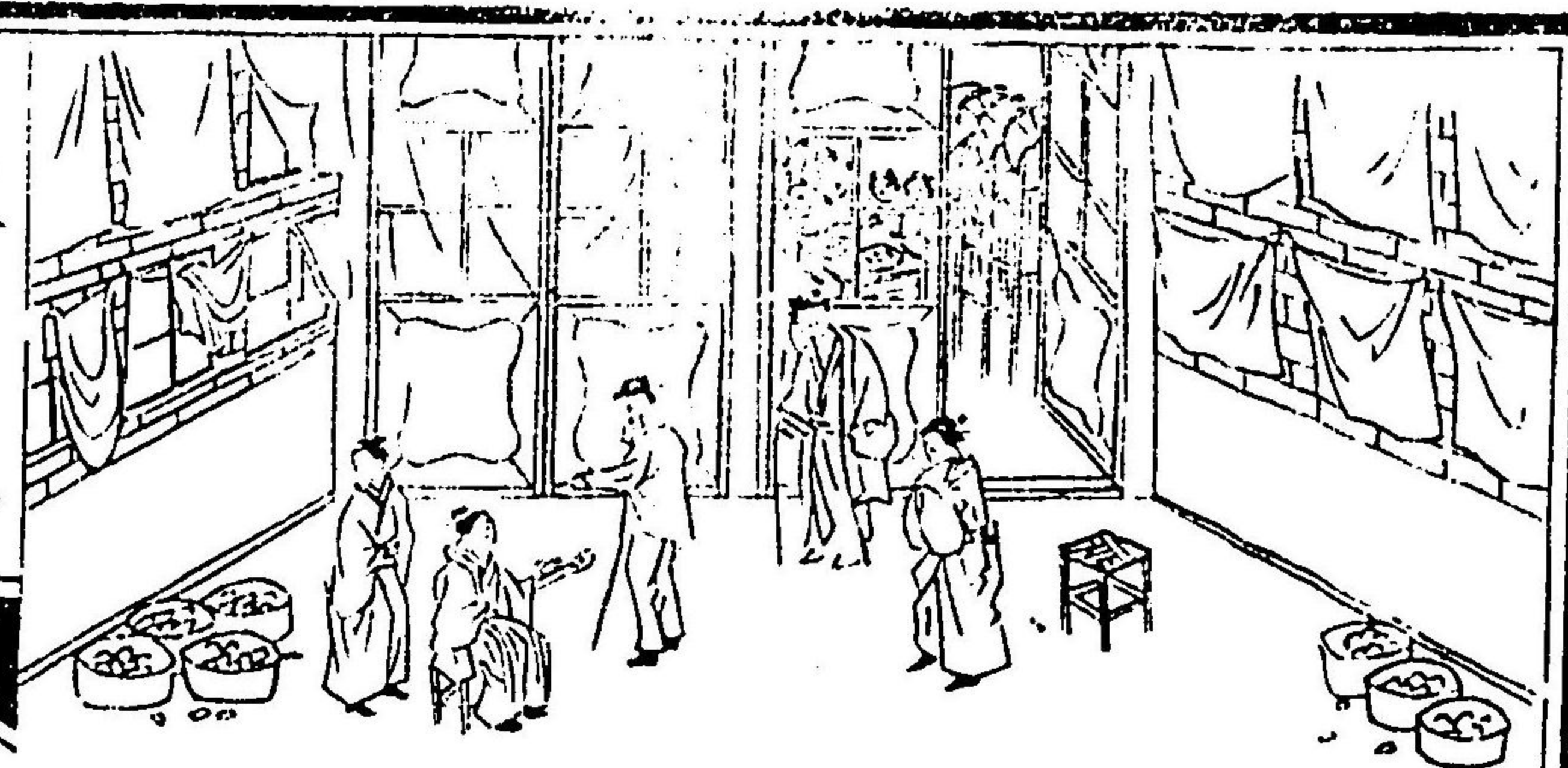
五、度、午、何、り
可、地、勢、ハ、平、
坦、也、之、山、嶽、
四、面、を、環、抱、

二貫百目銀九十四貫二
百目と出も陸中小坂銀
山々國人西洋の法と以て
一月銀凡四十五貫目と出
もとりの今全國礦産の出
る地と総計する小金四十
余所銀三十余所銅八十
所銀五六所鉛二十八所
錫二三所玉二三所炭二百
四十余所ありしり

し、山、也、之、殊、
以、為、甚、也、
不、國、名、也、
予、起、也、

製造

国内の製造大概支那の風
 不似たり 錢銅の製造ハ最
 巧あり 長崎港の如きと寒
 暖計千里鏡時辰表ふとれ
 ともなす
 製西洋小方らざるもの又
 多一各地絹布織物精緻美
 麗なり久きを経て破れ
 ず西京の錦繡々其美目と
 驚きざるものふ一又磁器



府中人口
 稠
 大凡二十七
 萬餘畧

加茂の清流
 あり市街美
 麗なる倉庫
 神社佛閣數

ハ元支那より流傳するものなり其精妙にして遠く文那に過ぐ中ハ漆器の製ハ世界に卓越し各國の人民之を得て珍重宝玩せざるを可し又紙を製するも精しく其種類甚多し其質脆薄ありて之を揉つて線とて物と末ぬきの用とをそへし其

多く學校に六十餘古式の名所意蹟ハ枚々舉ぐる

中擅紙奉書を以て上品とす其他杉原尺長小菊半紙等の類あり紙を製するハ西南地方は多し東北は最上竹を以て製す其家屋の建築の術ハ未だ泰西諸国の如く宏壯美麗ならずとも神殿佛閣に至りてハ煥然見るべし山の多し又刀劍の銳利

皇都大坂
西京坂
距
ること十三
里北緯三十

るる地球に其類少からんと
銅鏡の雕刻鑄造も亦妙
を極む

貿易

外国貿易の推興を今と距
るると三百三十年前即天
文十一年西洋千五百
四十二年 葡萄
呀人ひとりと以る者始
めて本邦に來り其明年上
の商舶を送り長崎港及び

一度四十九
分五度百三
十五度二十
分あり地

九州の地はかつて貿易を
始む尋て同國の教師來り
て異教を愚民に傳ふ慶長
年間に至りて又英吉利荷
蘭の商船來りて貿易を為
す此等の徒亦異教を傳ふ
其宗徒追々彌蔓し賊徒之
と煽動し寛永年間九州島
原の役ありて耶蘇一揆
を以て此に至り遂に葡萄

形東北山を
帯ひ西南あり
海多枕み東
京より狭

呀人を追ひ貿易と許さざ
 然るも支那和蘭兩國の
 み貿易を許しけるが長崎
 のこゝして他の港へ入る
 と厳禁を嘉永二年上至り
 亞國の使へるいある者
 船隊を率ひ蘇州浦賀港
 へ至る爰に於て始て通商
 の約と結ぶ尔來英吉利
 蘭西等漏生魯西亞澳太利

くしと西京
 ありて大友
 舟都味い性
 対豊后以王

西班牙連國端西北利時其
 他の諸國相次て来り方今
 締約のめの九十六ヶ國上
 及ふ開港場凡六ヶ所此内
 最盛なるものを横濱とす
 第二兵庫第三大阪第四長
 崎第五箱館第六新潟とす
 横濱ハ安政六巳未年六月
 二日千八百五 開港居留四
 百五十八戸二千五十人内

下兵馬此權
 を標り築乞
 右味廿
 此女七石壁

支那九百八十二人兵庫ハ
 慶應三丁卯年十二月七日
 千八百六十六年
 十七年 関港居留三百六
 十九戸四百七十二人内支
 那二百四十八人大阪ハ明治
 元戊辰年七月十日千八百
 六十七年関港居留五十二
 戸九十三人内支那三十四
 人長崎ハ安政六巳未年六
 月二日 千八百五十九年
 十九年 関港居留

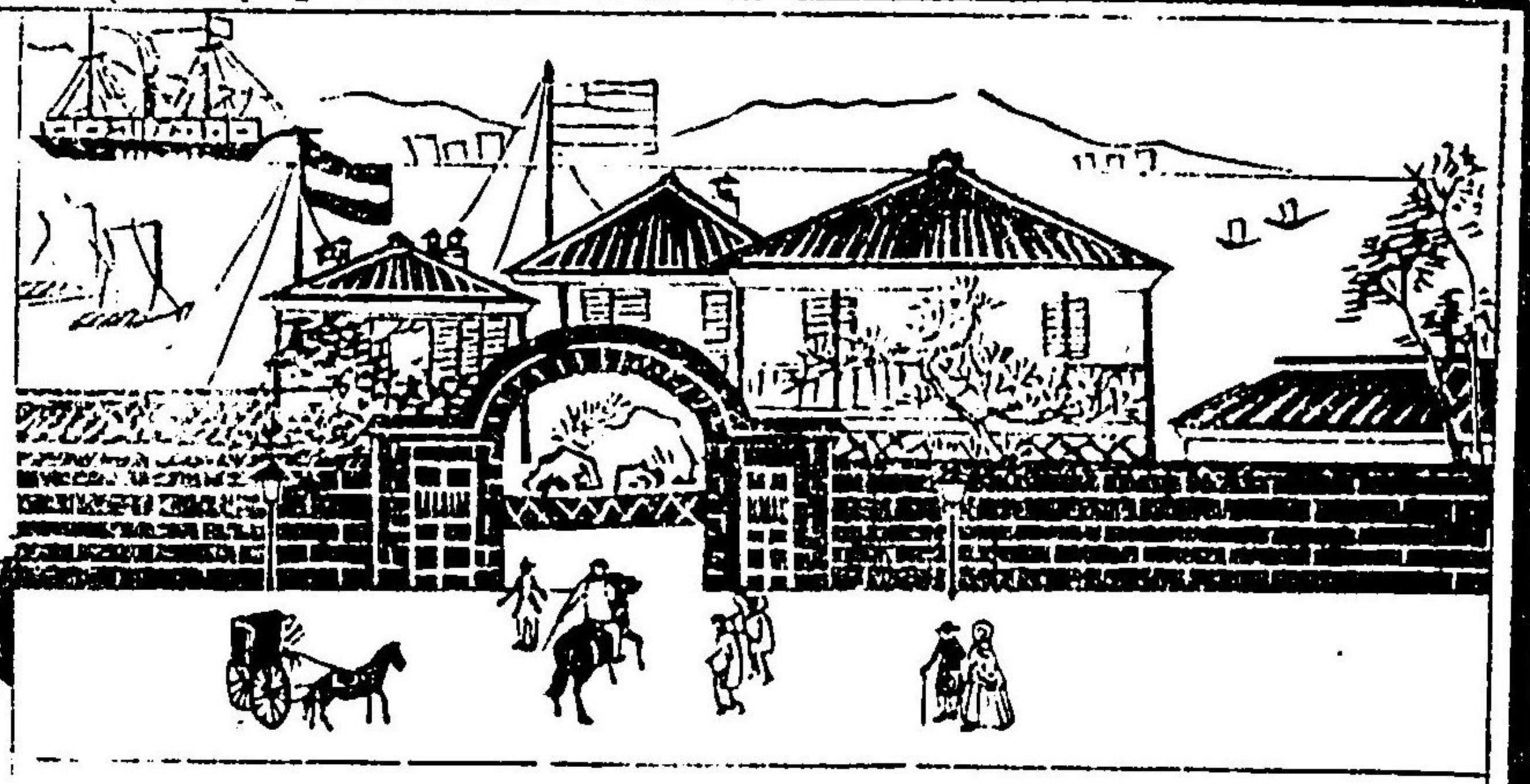
堺え濠源と
 宍壯比類也
 れり徳川
 氏の時より
 玉

百九十三戸七百八十人内
 支那六百七人新瀉ハ明治
 元戊辰年十一月十九日千
 百六十 関港居留五戸五人
 九年 内支那一人箱館ハ安政六
 巳未年六月二日 千八百五
 十九年 関港居留十四戸六十一人
 内支那二十三人ありとい
 ふ毎歳輸入の税金二十六
 万八千三百五十九圓八錢

りるの部
 穀ち去りと
 此内郵を存
 甘がとを

七厘輸出の税金十八万千
 十六圓四十九錢八厘あり
 とくふ横濱を東京と距る
 りと七里往時ハ山林翁傳
 民家稀疎寂莫たる田舎あり
 りと關津以來諸州の人
 民此に輻湊し次第に人口
 増加し巨商軒を連ねる
 貨山積し市街清潔堆積比
 類多し都會とあり波戸場

賑ふる出と
 年あ兵火あり
 為年饒災し
 大慶一時



島ありあり
 惟高産城遺
 是のみに初味
 の北丹波河

より望みハ進出口の船
船相街と繁華人目と驚く
を實に全国の文明此港上
り擴充を以て可あり
又瓦斯燈と創建し光明四
達三五夜中の月色も此が
為小光を失ふに至る是全
國の第一港と為す所以あり

海陸軍

あり數多此
長橋連架し
汽船中級
往來亦極便

陸軍を佛式を用ひ海軍ハ
英式を採り陸軍ハ近衛兵
りり臺兵あり近衛兵ハ
六大隊將二小隊砲四隊
り鎮臺を各所に置て不虞
に備ふ東京の臺兵本營十
大隊分營二大隊二小隊
と置く大阪の臺兵本營五
大隊分營二所二大隊と
置く石巻本營一大隊分營

小溝聯絡し
舟此出入自
由舟を運送
便を極むと

一所より四小隊を置く小倉
本営二大隊令營二所より一
大隊四小隊を置く本邦は
四方海に瀕するを以て特
に海軍に急を軍艦の數
十三艘運漕五艘此内貯蓄
一艘より乗組大凡千百六
十人余蒸氣商船六十九艘
此内鐵製のりの二十二艘
帆前商船大凡十八艘あり

其又西南の
海濱より外圍
人には海留地
あり貿易多き
港あり

陸軍の教導團の生徒凡三
百十人余海軍學寮の生徒
大凡二百四十人余あり今
年又制詔を下し兵農別
あるの舊慣を去り全國四
民の丁男を悉く兵籍
に編入す國を保護するの
盛舉何事より如人や造
船場の横須賀より一所长崎
より一所あり又各所を燈明

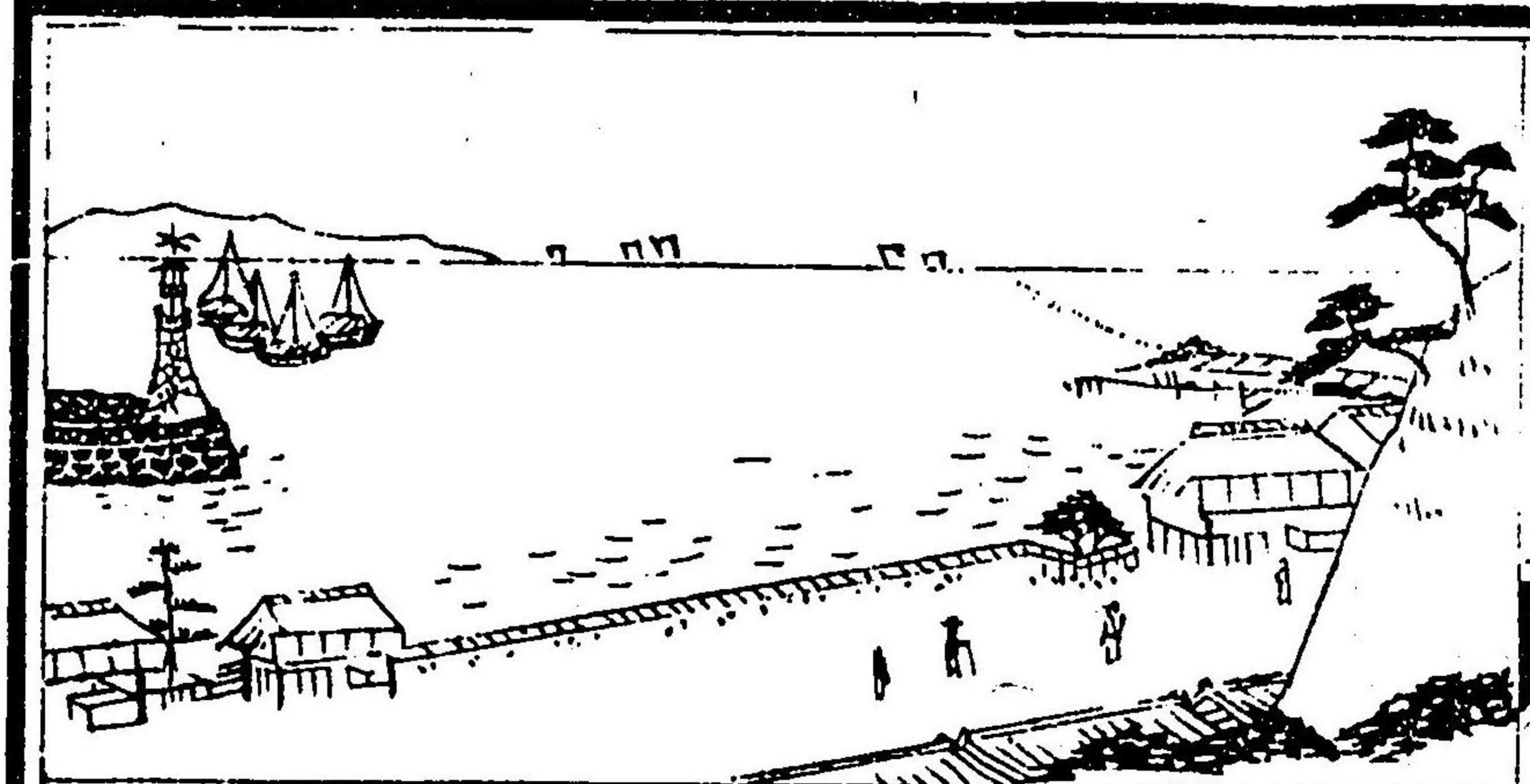
其海軍の數
量兵多き
と云ふ事
京と東洋中

臺と建築一航海の便を
 武州品川沖一赤色横濱
 波戸場一赤本牧燈船赤
 相州觀音崎一白色同敵崎
 一白色房州野島崎一白色
 相州城ヶ島一白色豆州神
 兒元島一白色同石室崎一
 赤色紀州檜野崎一白色同
 汐岬一白色攝州天保山一
 白色同和田岬一赤淡州

乃一大都水
 疎之十五分
 牙每り廣さ
 大凡十二寸

江崎一白色長州大連島一
 白色肥州伊王島一白色隅
 州佐多岬一白色渡島箱館
 燈船白色総計十八ヶ所あり
 光明の大小をた九里十
 二三里に達し大小をた
 二十余里に達するものあり

里人四一
 七十万西
 海を負心
 墨田河東南

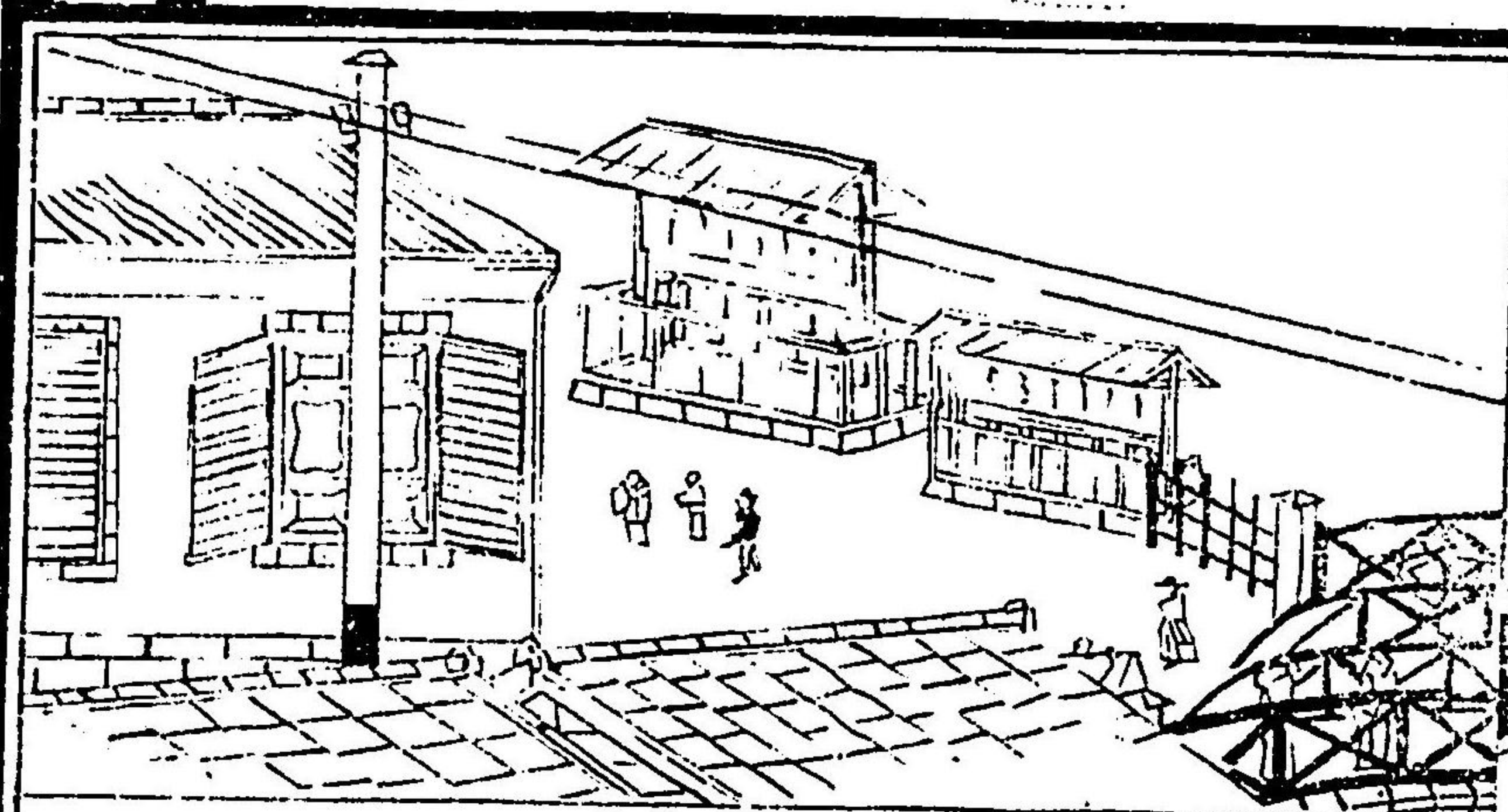


下流は溝渠
府中を縦横
し運送尤
便利あり

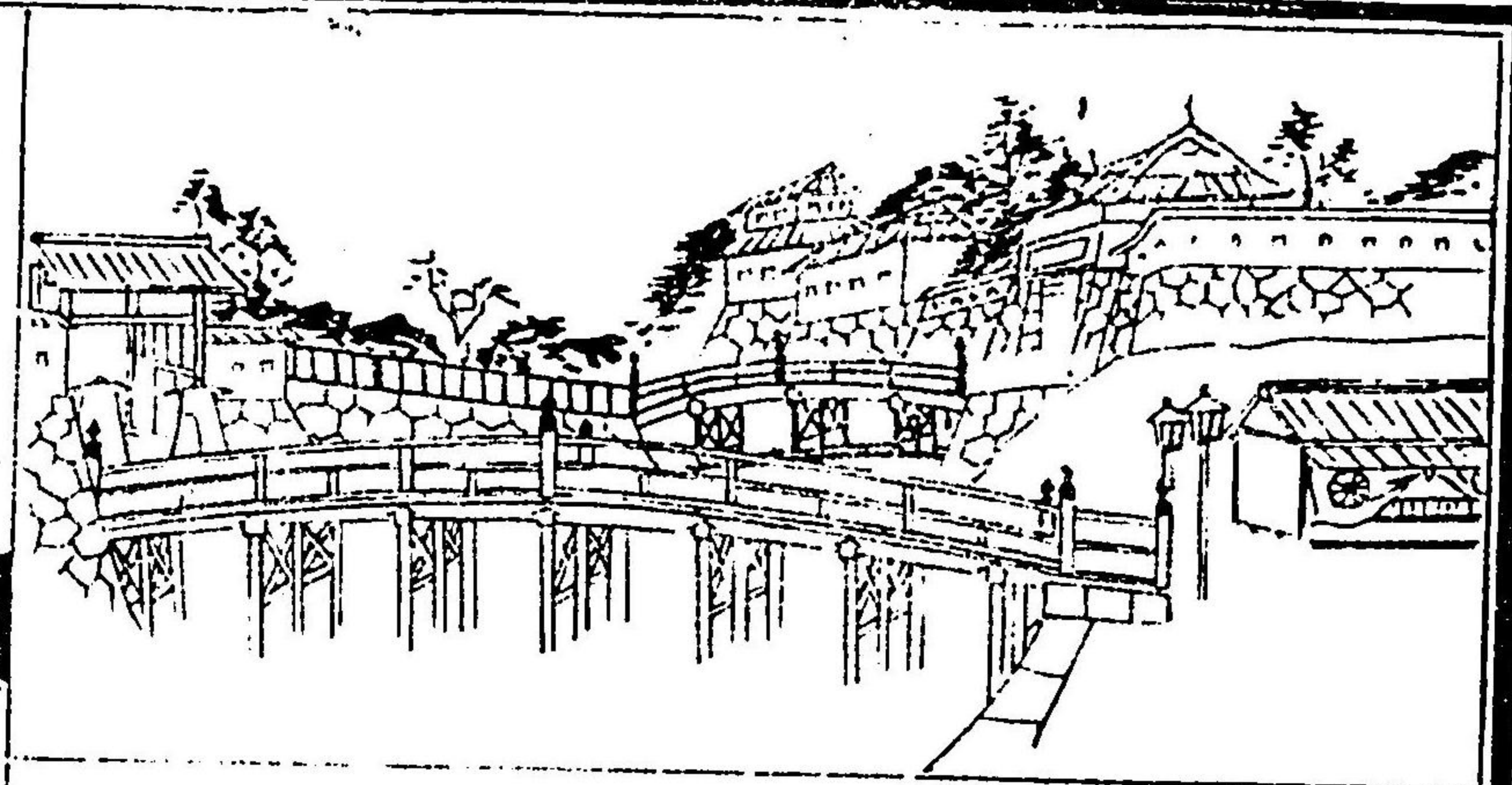
電信線

東京より横濱に至る線路
七里半余東京より長崎に
至る線路四百五十里東京
府内を築地日本橋本郷西
國邊草四ツ谷赤羽根の各
所と連絡を延日又東京よ
り奥州青森に至る線路を
架せんとす消息一瞬間に
達し遠征萬里の孤客も故

中央より皇城
あり周圍
三層の濠あり
れと石壁高



高 丈 七 六 之
高 丈 三 之
樓 榭 之
胡 琴 一
產 湯 池 園 友



市 街 清 潔
美 麗 如 玉 質
易 差 互 市
縣 山 奇 殊 百

郷と近しと電線成て地球縮小を實然り

鐵道

鐵道は東京芝口中留野より横濱野毛浦迄里程七里十二町三十間あり明治三年庚午三月十九日横濱に於て鐵道局を開く同月廿九日より測量を始め同年四月十二日より起業落成

貨 輾 り 七 人
武 雜 皆 孫 擾
し 車 高 取 行
馬 咽 考 殊 舟

の月日詳多しを明治五壬申九月九日開業天皇自ら臨御して其式を行ふ大阪より神戸迄の鐵道里程九里四町三十二間明治三庚午七月神戸に於て開局壬申六月に至つて落成す

海路里程概略

東京より相州浦賀迄 上六里

皇 政 維 新 以
後 萬 機 能 出
る 變 亦 一 王
制 度 省 時 力

豆州下田迄	五十一里
駿州沼津迄	七十三里
遠州福田迄	九十六里
勢州桑名迄	百四十三里
志州鳥羽迄	百二十五里
里	
播州大阪迄	二百四十里
八里	
播州高砂迄	二百五十里

梁を去り府
 内より一友九
 省を役者遣
 孫中宮より連

里	
備前兒島迄	二百九十里
四里	
備中玉島迄	二百三十三里
備後福山迄	三百十里
防州上關迄	三百四十里
九里	
藝州廣島迄	三百三十三里
里	
讃州九龜迄	三百一十一里

直一鉄是軍
 輸此役を増
 一学校病院
 系儀院貧院

豫州宇和島迄 三百八十

八里

豊前中津迄 三百七十

三里

豊後小浦迄 三百七十

二里

羽後酒田迄 七百六十

四里

壹州迄 四百三十

五里

文庫子玉

金備世

ふ

子

長州下関迄 三百八十

四里

豊後福崎迄 三百七十

三里

筑前福岡迄 四百十里

肥前唐津迄 四百二十

五里

日州油湊迄 四百五十

五里

薩州鹿兒島迄 五百二十

文

政化

波皮

子

五里 肥前長崎迄 四百六十

五里 石州温泉津迄 四百五十

七里 雲州宇龍迄 四百七十

九里 丹後旭迄 五百六十

五里 越前三國迄 六百二里

越前三國迄 六百二里

の聖代耳坐

走遊いぬる

人々各真

起勉勵

能州阿部屋迄 六百三十

七里 越後今町迄 六百八十

八里 佐州小木迄 七百八里

隱州迄 五百十二

對州迄 四百八十

三里

鴻恩第一

報由る乙楚

大日本全國

の蒼生算此

職分しやくぶんあり

是こゝにあること

高寺

菊

屋源作

同

澤本

屋要藏

同

島田

八百樹

前播

下妻

屋儀八郎

同

萬

屋半助

同

島村

吉三郎

伊勢寺

川水

屋平吉

安中

知真水屋喜兵衛

富岡

三島

屋喜十郎

深谷

小野

脩三

大 日 本

同	本庄	熊谷	朽木	羽生	伊勢等	鴻巣	通一丁目	通二丁目	芝神明前
酒井	酢	森	釜	安西	松本	長島	須原	山城	和泉
省	屋安兵衛	市三郎	屋喜兵衛	文次郎	玄端	為一郎	屋茂兵衛	屋佐兵衛	屋市兵衛

書

肆

室町三丁目	十軒店	本石町三丁目	大傳馬町三丁目	筋違外廣小路	茅町	行田	本庄	熊谷驛仲町	秩父大宮元町	東京淺草西鳥越町
紀伊國屋源兵衛	鈴木	梶	袋	紀伊國屋德藏	須原	博	同	同	同	同
喜右工門	屋喜兵衛	屋龜次郎		屋伊八	文	堂	店	店	店	張

